

一 對敵取引禁止令廢止ノ件
 同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ伴フ工業所有權ニ關スル件筆記
 附朝鮮總督府官制中改訂ノ件、公布遲延及總督任命ノ件並憲兵警備察制度
 廢止ノ件ニ於テル處理ニ關シ原總理大臣ヲ辯明
 大正八年十一月十二日
 正

国立公文書館
利用上の注意

秘密院會議筆記及び同委員會議
 は、非公開の席上における発言を
 記録したものであります。したが
 って当該発言者の共同著作物と解
 されますので、引用等発表に際し
 著作権法上の問題の生ずることの
 ないよう特に御配慮願います。

国立公文書館

分類	
配架番号	2 A 15-9 D 432

樞密院會議筆記

一 對敵取引禁止令廢止ノ件
一 同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約ニ
伴フ工業所有權ニ關スル件
附朝鮮總督府官制中改正ノ件
暹延及總督任命ノ件並憲兵警察
制度廢止ノ際ニ於ケル處理ニ關シ原
總理大臣ノ聲明

區

第

卷

細川顧問官 十八番

九鬼顧問官 十九番

金子顧問官 廿一番

末松顧問官 廿二番

南部顧問官 廿三番

三浦顧問官 廿五番

穂積顧問官 廿九番

安廣顧問官 三十番

岡部顧問官 卅一番

一木顧問官 卅三番

久保田顧問官 卅四番

富井顧問官 卅五番

井上顧問官 卅六番

平山顧問官 卅七番

關席負

山縣議長

皇族

裕仁親王 一番

貞愛親王 二番

載仁親王 三番

升
宮
院

依仁親王 四番

大臣

加藤海軍大臣 六番

内田外務大臣 七番

高橋大藏大臣 八番

田中陸軍大臣 九番

床次内務大臣 十一番

中橋文部大臣 十二番

野田逋信大臣 十三番

顧問官

伊東顧問官 十四番

樺山顧問官 十六番

芳川顧問官 十七番

杉 顧問官 二十番

都筑顧問官 廿四番

濱尾顧問官 廿六番

曾我顧問官 廿七番

小松原顧問官 廿八番

黒木顧問官 卅二番

委員

横田法制局長官

馬場法制局参事官

松村法制局参事官

以上各件ニ付

岡本農商務省商務局長

八木農商務書記官

以上ノ件對ニ敵取引禁止令廢止

中井特許局長

中松特許局事務官

報告員

二上書記官長

書記官

清水書記官

入江書記官

村上書記官

以上同盟及聯合國ノ獨逸國下ノ平和條約ニ伴フ工業所有權ニ關スル件ニ付

附
密
陽

外務省
記録課
附録

議長(清浦)之ヨリ會議ヲ開ク對敵取引禁止令

廢止ノ件、同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條

約ニ伴フ工業所有權ニ關スル件以上二件ヲ

一括シテ議題トス第一讀會ヲ開キ議案ノ朗

讀ヲ省略シ審査報告ヲ為サシム

報告負(二上)謹テ此ノ二件ヲ審査シ先ツ第一

ノ對敵取引禁止令廢止ノ件ニ付申上ケムニ

本令ハ大正五年巴里ニ於テ開催セラレタル

聯合國經濟會議ノ決議ニ基キ大正六年勅令

第四十一號ヲ以テ制定セラレタルモノニシ

附
録
附
録

テ其ノ要旨ハ主務大臣ニ於テ別段ノ定ヲ為
シタル場合ヲ除クノ外敵國、敵國人、敵國法人
其ノ他敵性ヲ有スル者ヲ當事者トスル取引
又ハ此等ノ者ノ為ニスル取引ヲ禁止シ此等
敵性ヲ有スル者ノ事業ハ主務大臣ノ定ムル
所ニ依リ之ヲ當該官廳ノ特別監督ニ附スル
コトヲ得主務大臣ニ於テ別段ノ定ヲ為シタ
ル場合ヲ除クノ外敵地産品又ハ敵地ヨリ来
ル物品ヲ輸入スルニハ主務大臣ノ許可ヲ要
スルコト等ヲ規定セルモノナリ然ルニ本令

ハ對獨平和條約ノ施行ニ伴ヒ獨逸ノ關係ニ
於テハ獨逸力敵性ヲ失フノ結果當然其ノ適
用ナキコトト為ルハク從テ爾餘ノ敵國ニ對
スル關係ニ於テモ著シク其ノ存立ノ理由ヲ
減殺シタルモノナリ加之本令ハ巴里經濟會
議決議中戰時ニ對スル措置ニ屬シ帝國政府
ニ於テ聯合國與國ト協調策應スルノ趣旨ヲ以
テ戰時權宜ノ處置トシテ實施セルモノニシ
テ今日世界戦争ハ漸ク其ノ終熄ノ時期ニ達
シ本令ハ既ニ其ノ目的ヲ達シタルモノト云

神代
書
卷
第
一
十
一
號

フハク現ニ禁止ノ本家本元タル歐洲諸國ニ
於テ此ノ禁止ヲ撤廢シテ對敵取引ヲ自由ナ
ラシムルノ事實アリ仍テ帝國政府ニ於テモ
此ノ際本令ヲ廢止スルコト蓋シ當然ノ措置
ナリ尤モ近頃本院ノ御諮詢ヲ經テ公布セラ
レタル獨逸國等ニ屬スル財産管理ノ勅令ニ
於テ講和條約ノ規定ニ伴ヒ賠償請求ノ擔保
ヲ保全スル為敵人之財産ヲ管理スルコトヲ
規定セルカ故ニ今若シ對敵取引禁止令ヲ廢
止シ財産ノ處分ヲ自由ナラシムルトキハ勢

ト本令ノ目的遂行上ニ支障ヲ來スコトナキ
カノ掛念アリ之ヲ當局ニ質問シタルニ當局
ノ説明ニ依レハ本令施行以來管理ノ必要ア
ル敵人財産ハ今日迄ニ既ニ差押濟ニセラレ
日對敵取引禁止令ヲ廢止スルモ別ニ支障ナ
シトノコトナリ然ラハ對敵取引禁止令ノ廢
止ハ刻下ノ情勢ニ於テ機宜ノ舉措ニシテ別
ニ不都合ノ慮ナキニ付本案ハ此ノ儘可決セ
ラレ然ルヘシト思料ス
次ニ第二ノ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和

皇
紀

明治
憲法
附則

條約ニ伴フ工業所有權ニ關スル件ニ付申上
ケムニ本件ハ本條約第三百七條ノ規定ニ基
クモフニシテ同條第一項及第二項ニ依レハ
例ヘハ獨逸人カ帝國ニ於テ戰爭前取得シタ
ル特許權其ノ他ノ工業所有權ニ付行為ノ追
完手續ノ履行又ハ料金ノ納付ヲ怠リタルニ
因リ其ノ權利ヲ失ヒタルトキハ本條約實施
ノ時ヨリ一年ヲ下ラサル限度ニ於テ帝國ノ
定ムル期間内ニ一切ノ行為ヲ追完シ、手續ヲ
履行シ又ハ料金ヲ納付シ曩ニ失ヒタル權利

ヲ回復スルコトヲ得斯ノ如ク一旦有シタル
權利ヲ失ヒタルトキ之ヲ回復スルコトヲ得
ルノミナラス戰前又ハ戰時中ノ出願ニ依リ
工業所有權ヲ取得セムトシテ同様ノ事情ニ
因リ之ヲ取得シ得サリシトキモ亦同様ノ條
件ノ下ニ其ノ權利ヲ獲得スルコトヲ得ルナ
リ此ノ權利回復ノ規定ハ其ノ本人ノ為ニハ
願ム便利ナルモ其ノ權利回復前ニ帝國ニ於
テ同一ノ發明意匠等ニ付既ニ工業所有權ヲ
取得シ又ハ事實上之ヲ利用スル為事業ヲ起

明治
憲法
附則

レタル者ハ右ノ權利回復ノ爲將來ニ向テ權
利ヲ失ヒ事業ヲ廢絶セサルハカラサルニ至
ル是レ甚ク不公平ナル結果ナルカ故ニ斯ノ
如キ場合同盟及聯合國ニ於テハ公正ノ見地
ヨリ必要ト認ムル措置ヲ執ルコトヲ得ルモ
ノトス本案ハ即チ帝國ニ於テ所謂公正ノ見
地ヨリ必要ナル制度ヲ立テムトスルモノニ
シテ前記條約ノ規定ニ依リ效力ヲ回復レタ
ル特許權實用新案權若ハ意匠權又ハ之ニ關
スル權利ノ效力ハ其ノ回復前帝國ニ於テ同

一ノ發明考案又ハ意匠ニ付適法ニ權利ヲ取
得シタル者又ハ事實上之カ實施ヲ開始レタ
ル者及其ノ權利又ハ事業ノ承繼人並其ノ權
利又ハ實施ニ依リ製作シタル物ニ及ハサル
コトヲ定メ即チ權利回復ノ效力ヲ一定ノ人
及物ニ對シ制限セムトス而シテ對獨平和條
約ノ實施ニ伴ヒ前記權利ノ效力回復スルト
同時ニ本令所定ノ制限ヲ實施セサルヘカラ
サルカ故ニ本令ハ右條約實施ノ日ヨリ之ヲ
施行スヘキコト當然ナリ本案ノ規定ハ特許

附則
附則
附則

刑部
法律
院

法、實用新案法又ハ意匠法ニ定メタル工業所
有權ノ効力ヲ制限スルモニシテ法律ノ規
定ヲ變更スルノ實質ヲ有スルカ故ニ其ノ内
容立法事項ニ屬スルコト疑ナシ乍併若シ平
和條約ノ施行ニ伴ヒ獨逸人等ノ權利カ絶對
ニ回復スルトキハ各種ノ利害關係人ニ不當
ノ損害ヲ醸シ惹テ國內ノ經濟關係ニ重大ナ
ル紛亂ヲ生スルノ虞アルカ故ニ帝國憲法第
八條第一項ニ依ル所謂緊急勅令ノ形式ヲ以
テスルモノナリ要スルニ本案ハ其ノ内容ニ

於テ妥當ノ處置ト爲スヘク其ノ形式亦已ム
コトヲ得サルモノト認ムヘク且列ニ不都合
ノ廉ナキニ付是レ亦此ノ儘可決セラレ然ル
ヘレト思料ス
右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス
二十二番(末松) 唯今御諮詢ノ二案ニ付書記官
長ヨリ縷々報告アリ本案ニ付テハ其ノ經過
等ニ關シ多少質問ヲ試ミルノ餘地ナキニア
ラサルモ結局之ニ同意スルノ外ナレ仍テ本
官ニ於テハ別ニ彼是論議ヲ費サス大體ニ對

區
署
完

シテ同意ヲ表ス尚讀會ヲ省略シテ直ニ可決
セラレ然ルハシト考フ

十九番(尤鬼) 同意

議長(清浦) 讀會省略ノ發議ニ對シテ賛成アリ

別ニ御發言ナキニ付讀會ヲ省略シテ直ニ採

決セム原案賛成ノ諸君ノ起立ヲ請フ

(全會一致可決)

曩ニ本院ニ御諮詢アリタル朝鮮總督府官

制中改正ノ件八月八日決議上奏ヲ經タル

後同月二十日ヲ以テ公布セラルル前同月

十二日舊官制ノ下ニ朝鮮總督及政務總監

ノ任命アリタルコト及同時ニ本院ノ決議

ヲ經タル朝鮮總督府警察官署官制廢止ノ

件公布ノ際別ニ本院ノ御諮詢ヲ經スシテ

之ト矛盾セル勅令第三百八十九號ヲ發布

セラレタルコトニ照シテ付審査委員間ニ

物議ヲ生レ清浦副議長ヨリ原内閣總理大

臣ニ左ノ如ク其ノ趣旨ヲ認メタルモノヲ

示レテ辯明ヲ求メタリ

一 曩ニ朝鮮總督府官制中改正ノ件ノ
本院ニ御諮詢アリタル際内閣ニ於
テハ新官制ニ依リ總督及政務總監
ノ任敘ヲ奏請スル爲速ニ右件ノ成
立セムコトヲ希望スル旨陳述セリ
然ルニ八月八日本院ノ決議上奏ア
リタル後同月二十日ニ至リテ稍ク
之カ公布ヲ見其ノ間舊官制ニ依リ
總督及政務總監ノ任敘ヲ奏請シ後
テ總督ニ對シテハ在官中特ニ現役

附
録
新

ニ列セシムル旨ノ優詔ヲ併セ請フ
ノ餘儀ナキニ至レリ其ノ結果總督
ハ新官制ノ下ニ在リテモ仍現役ノ
地位ヲ保有ス是レ内閣カ急速決議
ヲ請求シタル趣旨ニ適合セサルノ
ミナラス又官制改正ノ根本趣旨ニ
順應セサルモノナリ斯ノ如キハ果
シテ如何ナル理由ニ依ルカ内閣ノ
辯明ヲ求ム
二 同時ニ本院ニ御諮詢アリタル朝鮮

區
會
院

附則

總督府警察官署官制廢止ノ件ニ付
内閣ニ於テハ是レ所謂憲兵警察ノ
廢止ニシテ今次改革ノ一大要件ナ
リト説明シ且此ノ制度ハ此ノ際直
ニ之ヲ全廢スヘキ旨ヲ言明セリ然
ルニ八月二十日右勅令ノ公布ト同
時ニ本院ノ御諮詢ヲ經サル左ノ勅
令公布セラレタリ
勅令第三百八十九號
當分ノ内朝鮮總督ハ其ノ定ムル

所ニ依リ朝鮮ニ於ケル憲兵分隊
又ハ憲兵分遣所在勤ノ憲兵ヲシ
テ警察官署ニ屬スル職務ヲ執行
セシムルコトヲ得

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
此ノ勅令ハ一時仍從前ノ憲兵警察ヲ存置
スルモノニシテ唯前記内閣ノ言明ニ撞著
スルノミナラス又實ニ本院ノ決議ヲ經タ
ル案件ニ矛盾スルノ甚シキモノナリ若シ

果シテ此ノ規定ヲ必要トスルノ事情アル
ニ於テハ何等カノ形式ニ依リ併セテ本院
ノ御諮詢ヲ奏請スルコト當然ナリ内閣ノ
措置茲ニ出ラサリシハ明ニ穩當ヲ缺クモ
ノト謂ハサルヘカラス將來斯ノ如キ行違
ナカラムコトヲ望ム
之ニ對シテ本日會議ノ後原内閣總理大臣
ヨリ左ノ通演述アリ引續キ左ノ通發言ア
リタリ

五番(原) 本日議案ニハ關係ナキモ此ノ機會ニ

於テ一言シタキ事アリ

先般朝鮮總督府官制ノ改正案本院ニ御諮詢
アリ既ニ其ノ決議ヲ經テ之ヲ實行レタルカ
當時政府ノ意衷ニ於テハ朝鮮騷擾ノ後ヲ承
ケ中外ニ對シテ速ニ改革ノ實ヲ示スノ必要
アルカ故ニ成ルヘク早ク右改正官制ヲ實行
スル考ナリレナリ然ルニ朝鮮ニ於テ著シク
人心ノ安定ヲ缺キ且官吏ノ間ニ動搖ヲ來シ
一日ヲ緩クスヘカラサルモノアリシカ故ニ
已ムヲ得ス當時ノ現行官制ニ依リテ總督及

政務總監ノ任命ヲ奏請スルニ至レリ當初本院委員會ニ於テ申述ヘタル通り本院ノ決議アリタル後本業ノ公布ヲ見ル迄ニハ準備ノ為若干ノ時日ヲ要ス然ルニ其ノ間朝鮮官民共ニ動搖ノ虞アリ仍テ先以テ當時ノ官制ニ依リ總督及政務總監ヲ任命シ而シテ新官制ノ實施ニ移ルノ已ムヲ得サル處置ヲ執リタルナリ從テ總督總監ノ身分ノ如キモ當時ノ官制ニ依リ之ヲ定ムルノ外ナカリシ次第ナリ

今一ツ御斷リスヘキ事ハ朝鮮ニ於ケル憲兵警察制度廢止ノ件ナリ元來憲兵警察ハ永久ノ制度ニ非サリシモ種々ノ沿革ヲ經テ恰モ永久ノ制度ナルカ如キ觀ヲ呈スルニ至リ之ニ對シテ種々ノ非難アリ仍テ先般之ヲ廢シ普通ノ警察制度ヲ以テ之ニ代ヘタル次第ナルカ一時ニ全部ヲ入替ユルコトハ實行困難ナルノ事情アリ固ヨリ多クノ土地ニ於テ入替ヲ實行シタルモ或ル土地ニハ警察官ノ執務スヘキ屋舎ナク直ニ之ニ警察官ヲ送ルコト

ト能ハサルノ實況ナリ仍テ土地ニ依リテハ
一時ノ便法トシテ當分ノ内憲兵ヲレテ警察
官ノ職務ヲ行ハシムルコトトセリ是レ固ヨ
リ改革ノ本旨ニ非サルモ事實上ノ故障ニ因
リ一時ノ便法トシテ特別ノ措置ヲ執リタル
ナリ當時早ク此ノ事ヲ各位ニ申述ヘ又本院
ノ議ヲ經ル等適當ノ處置ニ出ツヘカリレナ
ルモ實ハ總督及政務總監ヲ任命レテ改革ヲ
實行セムトスルニ當リ始メテ右ノ障害ヲ設
見レタル次第ナリ尤モ速カラス其ノ必要ナ

キニ至ルヘキカ當時ノ事情ヲ申述ヘテ各位
ノ御諒察ヲ請フ尚將來斯ノ如キ行違ヲ生セ
サル様注意スヘシ當時ノ事情ハ或ハ既ニ大
要御諒解アリタルナラムモ此ノ機會ニ於テ
一言辯明ス
二十一番(金子) 唯今總理大臣ヨリ過般朝鮮總
督府官制改正ノ件本院ノ決議アリタル後尚
舊官制ニ依リテ總督及政務總監ヲ任命セラ
レタル事情ニ付縷々辯明アリ固ヨリ政府ニ
モ種々事情アリレナラムモ樞密院ニ於テ一

ノ官制カ時勢ニ順應セズ宜シク之ヲ改正ス
ヘレト爲シテ決議上奏シタル後即チ舊官制
ノ廢止ヲ決議上奏シタル後尚舊官制ノ下ニ
總督ヲ任命セラレタルカ如キハ本院ノ關係
ニ於テ未タ嘗テ其ノ先例ナシト信ス將來斯
ノ如キ例ヲ開クコトハ如何カト思フ今後ハ
本院ノ可決上奏アリタル後其ノ發布ヲ待チ
テ官吏ヲ任命シ其ノ他著々政務ヲ實行セラ
ルルコト穩當ナリト考フ此ノ件ハ本院ノ態
度ニ關スルコトト認ノ一言申述フル次第ナ

リ

五番(原) 普通ノ場合ニ於ケル事務ノ進行ハ一

ニ金子顧問官所説ノ如シ乍併本件ノ委負會

ニ列席セラレタル諸君ハ御承知ノ事ト思フ

カ當時米國其ノ他諸方面ノ非難ニ對シテ速

ニ相當ノ措置ヲ講セサルヘカラス之カ爲單

ニ宣言ノミニテハ不十分ニシテ實際ニ改革

ノ實ヲ示スノ必要アリ仍テ成ルヘク速ニ改

正官制ヲ決議セラレムコトヲ希望シタルナ

リ而シテ改正官制ヲ實施スルニハ其ノ準備

ノ為多少ノ日子ヲ要スルモ本院ノ決議ヲ經
サレハ其ノ準備ニ著手スルコト能ハサルカ
故ニ旁速ニ決議アラムコトヲ希望シタル次
第ナリ然ルニ其ノ決議迄ニ本院ニ於テ約四
十日ヲ賞シタリ其ノ間前任ノ總督及政務總
監ハ責ヲ引キテ辞表ヲ提出シ又朝鮮ノ間民
間ニ動搖ヲ生シタリ此ノ場合前任者ヲシテ
新官制實施ノ準備ニ當ラレムコトヲ得ヌ
不得已舊官制ノ下ニ總督及政務總監ノ任命
ヲ見タルナリ是レ遺憾ナル次第ナルモ國政

上已ムヲ得サリシ事情ヲ諒承セラレムコト
ヲ請フ固ヨリ好テ為シタル處置ニ非ス右様
ノ事情ニ逢著シ餘儀ナクシテ事此ニ出テ夕
ルナリ

三十三番(一) 唯今朝鮮總督府改正官制發布

前後ノ事情ニ付縷々説明アリ其ノ第一ノ點
ニ付テハ金子顧問官ノ陳述ニ對シ重ホテ總
理大臣ノ辨明アリ當時本官等ニ於テモ官制
決定後實施ノ為相當ノ準備ヲ要スヘキコト
ヲ諒承セシカ故ニ本院ノ決議後公布迄ニ數

日ノ時日ヲ經過セルコトニ付テハ固ヨリ何等ノ疑ヲ挾マズ唯新官制ノ決定後其ノ實施準備ノ為幾千ノ日子ヲ要スルカヲ詳ニモサ
ルモ其ノ間内部ニ於テ必要ナル準備ヲ整ヘ
發布ト同時ニ表面ノ手續ヲ取ラルルコトト
豫期シタルニ發布前既ニ總督ノ任命アリタ
ルハ甚タ意外ナリ其ノ後數日ニモテ發布ア
リ其ノ間僅ニ數日ニ過キス朝鮮ニ於ケル人
心ノ不安ヲ鎮靜スル為總督ノ任命ヲ急キタ
ル事ナルカ僅々數日ノ遲速力之カ為何程ノ

推察院

效果アリモカ疑ナキ能ハサルナリ然レトモ
此ノ點ハ畢竟所見ノ相違ニ歸者人ヘキカ故
ニ強テハ主張セサルヘシ本官ノ特ニ聞カム
ト欲スル所ハ朝鮮ニ於ケル警察制度改正實
施ノ際本院ニ御諮詢アリタル案ハ即刻憲兵
警察ヲ廢止セムトスルモノニシテ當時本官等
ハ其ノ實行ノ能否ニ付多少ノ疑ヲ抱キタル
モ政府ニ於テ即刻之ヲ實行スルノ決心ナリ
ト承リ原案ニ同意シタル次第ナリ然ルニ愈
其ノ實施ノ際別ニ勅令ヲ出タレテ當分ノ内

通覽

憲兵ヲレテ警察官ノ職務ヲ行ハシムルコト
ト爲レリ其ノ事情ハ諒承シタルモ前案ハ即
日廢止ヲ定メ後案ハ當分存續ヲ定ムルモノ
ニレテ前後其ノ内容ニ於テ正シク相牴觸セ
リ斯ノ如ク内容ヲ異ニスル案ヲ發布スルニ
當リテハ更ニ本院ニ諮詢セラレ然ルハキモ
ノト考フ唯今迄ノ總理大臣ノ説明ハ此ノ點
ニ及ハサルカ故ニ一應承リタシ
五番(原) 憲兵警察ヲ廢止スルノ趣旨ニ於テハ
政府ハ始メヨリ同一ノ意見ニシテ何等牴觸

スル所ナレバ唯實際警察官ヲ以テ憲兵ニ代フ
ルニ付第一ニ困難ヲ感ヒタルハ土地ニ依リ
テハ警察官ノ職務ノ場所ナキ事ニレテ憲兵
屯所ヨリ憲兵ヲ追ヒ出タスニ非サレハ警察
官ノ職務ノ場所ナレト云フカ如キ有様ナリ
仍テ不得已一時的處置トレテ憲兵ヲレテ警
察官ノ事務ヲ行ハシムルコトトシタルナリ
是レ決シテ希望スヘキ趣旨ニ非サルモ差向
キ巴ムヲ得スレテ斯ノ如キ便法ヲ講ヒタル
ノニシテ固ヨリ憲兵警察ヲ廢止スルノ本

旨ニ抵觸スルモノニ非ス當時委員會ニ於テ
 本案審議ノ際此ノ次第ヲ説明スルカ又ハ併
 セテ御諮詢ヲ奏請スルノ途ニ出ツヘカリシ
 ナルモ實ハ新總督以下任命ノ後警察官ヲ以
 テ憲兵ニ代ハムトスルニ至リ始メテ之ヲ裁
 見シ一日ヲ空シクスルコト能ハサルニ因リ
 不得已右ノ處置ヲ取リシ次第ナリ
 三十三番(一木) 唯今重ネテ説明アリ當時已ム
 ヲ得サル事情アリシコトハ能ク諒承セリ唯
 當初本院ノ決議ヲ經タル案ニ對シ別案ヲ以

テ例外ヲ設ケ又ハ其ノ内容ヲ變更セムトス
 ルトキハ道理上更ニ本院ノ御諮詢ヲ奏請セ
 ラルヘキト認ム此ノ點ニ付テハ政府ニ於テ
 モ同意見ナルモノト認メ之レ以上論議ヲ費
 ササルヘシ
 二十二番(末松) 先刻總理大臣ノ説明中ニ委員
 タル人々ハ承知セル筈ナリトノ言葉アリシ
 カ本日ハ委員中数名出席セルカ故ニ之ニ對
 シテ一言ノ辯明ナキヲ得サルナリ
 當時本官等カ教田ノ會議ニ於テ感得レタル

所ハ總理大臣カ今日本官等ニ諒解セシメ
トセラルル所トハ大ニ異ナルモノアリ當時
本官等ノ諒解シタル趣旨ノ一端ヲ云ハハ速
ニ新官制ヲ出タサケレハ總督ヲ任命スルコ
トヲ得スト云フニ在リナリ乍併新官制ノ
實施ニ付テハ種々ノ事情アルヘク又世上彼
是ノ風説アリ本日ノ會議ニ於テ總理大臣カ
陳述セラレタル所ハ當時政府ノ處置カ理義
ノ上ニ於テ是トスヘキモノニ非ストノ趣旨
ヲ諒解セシムル爲ノ演述ト認ノ必スシモ固

執セラレサルコトヲ感服ス故ニ必スシモ當
時ノ諒解ニ基キテ深ク論議スルノ必要ナレ
若シ總理大臣ニ於テ委員會ノ諒解云々ヲ固
執セララルルナラハ本官等ニ於テモ一段歩ヲ
進メテ論究セサルハカラサルモ其ノ次第ニ
非ストノ事ナレハ今日ハ事情ヲ諒承レ將來
斯ノ如キ行違ナキコトトシ本院ノ立場ヲ保
ツヘキナリ委員會ノ諒解云々ノ義ハ總理大
臣ノ演說中ニ一應表ハレタルノニシテ強
テ徹底的ニ斷言セララルニ非サレハ其ノ儘

聞キ流スコトトスヘ

五番(原) 余ハ委負會ニ於テ新官制ノ發布前ニ

若干ノ時日ヲ經過スヘキ旨ヲ説明シタルコ

ト申述ヘタルナリ舊官制ノ下ニ總督等ヲ任

命シタルハ當時朝鮮ノ人心安定ヲ缺キ官吏

モ落著カサルカ如キ實狀ニシテ前途分明ナ

ラサル官吏ヲシテ新官制ノ準備ニ當ラシム

ルコト困難ナリ官吏ノ選任ノ如キモ前任者

ヲシテ之ヲ為サシムルコトヲ得ス又後任者

ハ自己任官ノ發表前ニハ表面ニ立チテ事ニ

當ルヲ得ス此等ノ事情ニ因リ不得已彼ノ如

キ處置ヲ取リタルナリ

議長(清浦) 朝鮮總督府官制改正ノ件ニ付總理

大臣ヨリ其ノ施行上當時已ムヲ得サリ

情ヲ陳述セラレ之ニ對シテ顧問官中ヨリ議

論アリタルモ要スルニ總理大臣ノ縷々陳述

セラレタル中ニ當時ノ事情ハ諒承セラレタ

レ乍併斯ノ如キハ遺憾ナリトノ語句アリ又

憲兵警察廢止ノ件ニ付テハ總理大臣ヨリ將

來注意スヘシ云カノ言葉アリ仍テ此ノ件ハ

之ニテ結了スルコトトセム
本日ハ之ニテ散會ス

(午前十一時二十分閉會)

副議長子爵清浦奎吾

書記官長 二上歩兵

書記官

村上恭一

勅令 號

對敵取引禁止令ハ之ヲ廢止ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢
ヲ經テ帝國憲法第八條第一項ニ依リ同盟及聯
合國ト獨逸國トノ平和條約ニ伴フ工業所有權
ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

年月日

内閣總理大臣

各省大臣

勅令第 號

同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約第三百七
 條第二項ノ規定ニ依リ效力ヲ回復シタル特許
 權、實用新案權若ハ意匠權又ハ之ニ關スル一切
 ノ權利ノ效力ハ其ノ回復前當該ノ發明考案又
 ハ意匠ニ付權利ヲ取得シ又ハ實施ヲ開始シタ
 ル者及其ノ承繼人並其ノ權利又ハ實施ニ依リ

製作シタル物ニ及ハス

附則

本令ハ同盟及聯合國ト獨逸國トノ平和條約實
 施ノ日ヨリ之ヲ施行ス